

## 第5章 計画の着実な推進に向けて

### 1 施策の推進体制

本計画の推進に当たっては、地域の食育活動団体や学校、食品関連事業者などと連携して、施策の成果や関係者の取組状況を把握し、情報を共有できる仕組みをつくる必要がある。そのため都、区市町村、食育活動団体、食品関連事業者団体などで構成する協議会を設置し、事業の進捗状況を点検するとともに具体的な施策を検討することとする。

さらに、本協議会を活用して関係団体による共同事業を実施し、各活動団体相互のネットワーク化を進めていく。

### 2 関係者の役割

食育の推進を実効性のあるものとしていくためには、東京都、区市町村をはじめ、事業者や地域社会などがそれぞれの役割を果たしていくことが重要である。

#### (1) 東京都

都市の集積を活かした食育の推進に積極的に取り組み、その成果の普及に努めるとともに、区市町村や食育関連団体などと連携して地域の食育活動の推進・支援を行う。

##### ① 計画の着実な推進

ア 計画が目指す理念を実現するため、全庁を挙げて食育推進計画を着実に実施

イ 計画の取組の方向に基づく先進的な取組を推進・支援

##### ② 食育の拠点機能の充実

ア 地域の活動拠点を結ぶネットワークの形成支援

イ 食育活動の核となる人材の育成と活動支援

ウ 体験学習の受入れと、体験学習の講師の養成や派遣

エ 都立学校における食育の推進

③ **さまざまな食育関連の団体が連携した活動をコーディネート**

- ア 地域の各団体や食品関連事業者など多様な主体を結びつけて、体験学習などの活動を支援
- イ 地域の活動団体相互の交流や合同事業を促進・支援

④ **区市町村や広域的な食育活動を行う団体への支援**

- ア 地域の特性を踏まえた区市町村の総合的かつ計画的な食育活動を推進・支援
- イ 食品関連事業者や食育関連団体、消費者などとの様々な団体が合同で行う活動など広域的な食育団体の取組を促進・支援

(2) **区市町村**

食育はライフステージを通じた取組であり、地域に根ざした活動を定着させることが重要である。そのため都民に一番身近な自治体である区市町村は、地域に密着した食育活動の推進役として大きな役割を担う。

① **地域の特性を活かした食育の推進**

- ア 地域における総合的な食育事業の推進
- イ 地域や住民の積極的な参加を促して、地域社会全体で取り組む食育活動を推進・支援
- ウ 地域の各種食育関連団体や住民グループの育成と、異分野相互のネットワーク構築と活動促進

② **家庭、学校、地域が連携した食育の推進**

- ア 保健所や保健センターなど地域における健康づくりの拠点での食育を推進
- イ 公立小・中学校における食育の推進  
学校における食育に関する指針の策定や食育リーダーの育成を図る。
- ウ 学童農園や生産体験農園など様々な生産体験の場づくりを推進

### ③ 都や他の自治体、広域的に活動する団体との連携

地域活動団体の広域的な交流を支援するため、都や他の行政機関や関係団体との連携調整を実施

## (3) 食品関連事業者など

食品の生産・流通・製造者など食品関連事業者には、食の安全安心の確保に取り組むとともに、都民の健全な食生活の実現に向けて積極的な役割を果たすことが期待される。

### ① 生産情報などの提供

- ア 生産地や栽培、飼育環境や生産・製造などの履歴の公表
- イ 食の安全安心の確保に向けた消費者との相互理解の促進

### ② 見学の受入れや講師養成・派遣への協力

- ア 生産から流通、加工、製造まで、様々な場において食を体験的に理解できるように、受入環境の整備
- イ 体験学習の講師役としての人材の育成と学習の場への派遣

### ③ 食を通じた健康づくりを支えるメニューや情報の提供

- ア 栄養バランスに優れ、一人ひとりにあった栄養摂取ができるなど、選択性の高いメニューの提供
- イ 若い世代から食を通じた健康づくりに関心を促し、バランスのよい食生活が実践できるように、わかりやすく、選択しやすい栄養成分表示などの情報提供

## (4) 都民

### ① 一人ひとりの自覚と実践

自分の心身の健康は、自らの食により作られるという自覚を持って、規則的でバランスのとれた食生活の継続に努める。また、食を通じたコミュニケーションや自然に対する感謝の心など、食が持つ多面的な機能を大切にする心がけを持って、健康的でこころ豊かな食生活を実践していく。

ア さまざまな食の体験を積みながら、食を選び、作り、食べることへの自己管理能力を高める。

イ 食に対する関心を持ち、様々な情報を積極的に得て、食の選択判断に有効に活用する。

## ② 学校や地域活動への参加・協力

子どもたちへ「食」を伝える担い手としての意識を持ち、自らが持っている技術や知識を活かし、また、向上に努めながら、学校での生産体験学習や地域における食育活動に積極的に参加・協力する。

